

会告

第 28 回（2025 年度）認定輸血検査技師試験の結果

令和 7 年 11 月 1 日

認定輸血検査技師制度
協議会 会長 河野武弘
審議会 会長 奥田 誠
試験委員長 加藤栄史

本試験制度は、一次試験を筆記試験、二次試験を実技試験とした。また、二次試験受験資格者は一次試験合格者とした。さらに、二次試験の採点方式も、加点方式であり、以前からの二次試験で大きく減点とされていた問題（血液型判定、可能性の高い不規則抗体同定など）を、一次試験および二次試験における必須問題とし、必須問題を全問正解することを合格の条件とした。また、必須問題は配点がなく、必須問題以外の問題を採点した。

【1】 一次試験（筆記試験）

1. 受験申請者数：188 名

実受験者数：183 名（辞退者 5 名）

2. 試験結果

- 1) 知識問題：平均点 62.2 点（最高点 87.9 点、最低点 31.3 点）
- 2) 臨床問題：平均点 73.0 点（最高点 96.0 点、最低点 31.0 点）
- 3) 2 科目合計：平均点 67.5 点（最高点 89.4 点、最低点 33.2 点）
- 4) 必須問題：正解者数 57 名（31.1%）
- 5) 合格者数：47 名（合格率 25.7%、47 名/183 名）
 - ・ 新規受験者：38 名（合格率 31.1%、38 名/122 名）
 - ・ 再受験者：9 名（合格率 14.8%、9 名/61 名）

3. 試験内容と講評

認定輸血検査技師制度第 28 回一次試験（筆記試験）は令和 7 年 6 月 22 日（日）、名古屋サンスカイルーム（愛知）を会場に行われた。一次試験は知識問題と臨床問題の 2 科目で行われた。両科目とも試験時間が 90 分間で、マークシ

ート問題と記述問題で構成した。内容は輸血医学の基礎、輸血検査（基礎、血液型検査、不規則抗体検査など）、輸血に関連する臨床、計算問題、カラム凝集法やマイクロプレート法の検査問題などを出題し、症例問題の血液型判定、可能性の高い抗体同定を必須問題とした。難易度は昨年度の一次試験とほぼ同程度で、平均点は 67.6 点と昨年度の平均点 (70.6 点) と同水準であった。しかしながら、本年度試験の合格率は 25.7% と非常に低かった。その原因として、血液型判定や可能性の高い抗体同定などの必須問題に対して 57 名 (31.1%) のみが正解であり、昨年度 (77.4%) に比して正解率が極端に低下していた。その要因として、輸血検査に関する基本的な知識不足、問題文の内容を理解せず解答していると推察された。受験者は、赤血球型検査（赤血球系検査）ガイドラインなど輸血検査に関する基本的な内容を理解し、問題文をよく読んで内容を十分に理解してから解答する姿勢が望まれる。

【2】 二次試験（実技試験）

1. 受験者数

- ・ 申請者 95 名の内、本年度の一次試験合格者が 47 名、二次試験のみが 48 名であった。
- ・ 実受験者数：93 名（辞退者 2 名）

2. 試験結果

1) 成績

- ・ 平均点：85.5 点 (86.9 点)、最高点：97.5 点 (99.0 点)、最低点：55.2 点 (43.4 点)
() は 2024 年度の成績
- ・ 血液型検査（平均点：88.3 点、最高点：100 点、最低点：52.5 点）
- ・ 抗体検査（平均点：82.7 点、最高点：100 点、最低点：44 点）

2) 合格者数

- ・ 合格者数：72 名（二次試験での合格率 77.4%、72 名/93 名）
- ・ 一次・二次総合での合格率：31.4%（72 名/229 名）

3. 試験概要と成績

1) 概要

認定輸血検査技師制度第 28 回二次試験（実技試験）は、新型コロナウイルス感染症が蔓延する以前と同様に、岡山大学（岡山）の 1 会場で実施した。

試験日は8月30日（土）に行い、申請者95名で2名が辞退され、実受験者数は93名であった。

試験問題は血液型検査関連、抗体検査関連（交差適合試験を含む）の2科目とした。各科目の机上問題は一次試験で実施されていることから昨年度から実技試験のみとし、1科目の問題数を減らした。その結果、血液型検査関連は3題、抗体検査関連は2題とした。問題数の減少に伴い試験時間を70分間に短縮した。

2) 実技試験の講評

全科目の平均点は85.5点と高得点であり、血液型検査関連、抗体検査関連の平均点は各々88.3点、82.7点と両科目とも高得点であった。今年度も昨年度と同様に抗体検査関連の平均点が例年に比して非常に高得点であった。その要因として、昨年度と同様に、令和5年度に比して試験時間は短縮したが、問題数（実技問題のみ）を減らした事で時間的余裕が生まれた事と推察される。また、難易度は問題数の減少でやや易しくなったかと考えるが、内容的にはこれまでとほぼ同程度と考えられた。更に、二次試験の合格率が77.4%と高率であった。その要因として、必須問題の不正解者が19名（20.4%）と令和5年度に比して減少した事、抗体検査関連の平均点が高得点であった事が原因と考えられる。この好成績は、今年度の受験者が基本的な手技、手順などを習得した結果と考えられた。

血液型検査関連に対する試験では、平均点が88.3点と高得点であった。多くの受験者は判定結果の解釈や、その後の検査や輸血の対応など必要な知識を習得していると考えられた。ただし、血液型判定（再検査を含む全ての検査判定）などの必須問題での不正解者が16名（17.2%）も認められた。血液型判定検査は輸血関連検査の中で、最も重要かつ基本的な項目であり、改めて、検査手順も含めて復習して頂きたい。

抗体検査関連に対する試験では、平均点が82.7点と高得点であった。必須問題の不正解者が6名（6.5%）と昨年度より減少した。多くの受験者は判定結果の解釈や、その後の検査や輸血の対応など必要な知識を習得していると考えられた。

3) 試験結果の通知表記

今回、血液型・抗体検査関連試験の全てにおいて及第点を取得し、必須問題を正解した受験者が合格となる。評価ランクに関しては、必須問題が正解

の受験者に対して、一定の基準にて A～F に分け、絶対的評価とし、必須問題不正解の受験者に対して、及第点の有無で G と H に分けた。各科目および総合で基準点以上かつ必須問題正解を A～C とし、合格者とした。必須問題正解で基準点未満を D～F に分け、さらに、必須問題は不正解で基準点以上を G、基準点未満を H とし、D～H の受験者は不合格とした。

4. まとめ

今年度は、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたことから、医学系大学の岡山大学の 1 会場で実施した。血液型検査関連と抗体検査関連の 2 グループに分けて同時に行う事で、抗体検査関連では受験者 1 名に 1 台の遠心機を確保する事ができた。今回の二次試験は高い平均点、合格率であった。ただ、必須問題の不正解で不合格になる受験者が認められ、基本的な手技、知識を再習得する必要があると考えられた。

【3】 第 28 回認定輸血検査技師試験の総合結果

1. 受験者数

- ・ 申請者数は 236 名で辞退者が 7 名で、実受験者数は 229 名であった。

2. 総合判定結果（一次・二次試験の総合判定結果）

- ・ 今回の試験を受験された受験者 229 名中、合格者数は 72 名（合格率：31.4%）であった。

3. 試験成績について

全体の合格率は 31.4%（72 名/229 名）で、昨年度の 53.4%に比して低率であったが、令和 5 年度が 30.6%であり、例年とほぼ同じ合格率であった。一次試験に関しては、平均点が昨年度よりやや低く、合格率は例年になく低率であった。要因は必須問題の正解率が約 3 割と非常に低い事と考える。一方、二次試験に関しては、昨年度と同様に平均点、合格率ともに高率であった。特に、必須問題の正解率が昨年度より更に高率であり、受験者が知識、手技ともに勉強されたものとする。但し、全体としては、認定輸血検査技師として望む知識、手技などに到達されていない受験者が過半数以上を占めており、多くの受験者は、今後、更なる研鑽を積み、来年以降に多くの受験者が合格される事を希望する。